

LINN SONDEK LP12



EKOS
トーンアーム
LINGO
別電源
ARKIV II
カートリッジ

アナログレコードプレーヤー

「回り続ける」という修飾語が殊のほかピッタリくるのは、

LP12が35年という歳月を現役として生き続けるからだ。なんとそれが10万台以上とは…。

その間、幾多のレコードがこのターンテーブルにのせられたことだろう。

そして、この先どれだけの音楽があなたに届けられることだろう。

LP12は静かに、静かに回り続ける。朝焼けの今日、まだ見ぬ明日も。

SOUND CREATE www.soundcreate.co.jp

〒101-0021

東京都千代田区外神田3-10-3 プライム秋葉原ビル

営業時間／PM 12:00 ~ PM 8:00 (土日・祝日/PM 12:00 ~ PM 7:00)

お取り扱いブランド

<ビューオーディオ> LINN/PIEGA/TRIGON/OCTAVE/ANTHONY GALLO/ATC/McIntosh/YG ACOUSTICS /ORTOFON/DENON

/BOULDER/AURE/GERMAN PHYSIKS/AURA

<ホームシアター> LINN/ANTHONY GALLO/AMX/FUJITSU GENERAL/STEWART/KIKUCHI/SHARP/LUTRON/VICTOR/MARANTZ

<アクセサリー> Sound Mechanics/FAST AUDIO/FREA/QUADRASPIRE

<家具・インテリア> QUADRASPIRE/TABULARASA/FLOS



SYSTEM

LINN TUKAN
スピーカー

LINN SONDEK LP12
レコードプレーヤー

LINN LINTO
フォノイコライザ

LINN SONDEK CD12
CDプレーヤー

LINN CLASSIK MOVIE
DVDプレーヤー

LINN KLIMAX KONTROL
プリアンプ



埼玉県にお住まいのM氏邸

「私の世代にとって、アナログレコードは唯一のメディアでしたから『アナログを聴く』ということはごく自然な行為なんです。」今年48歳になるという氏は、学生の頃レコードを買って友人と貸し借りしたりする音楽の好きな普通の青年だったという。

氏のレコードを扱う滑らかな動作に年季を感じる。盤をターンテーブルに置くと、トーンアームを中心に向かって数回、上下にも軽く数回トーンアームを動かした。顔に「不思議」と書いてしまった私を横目で見ながら、「ちょっとね、準備運動です」と言われた。少し音を出して、また調整する。「最初よりよくなかったかな」と、出た音は明らかに違う。

もこっとした音が、伸びやかで、明瞭に、氏の手はマジックハンドにさえ見える。

「こんなに毎度変わってしまうんですか？」オーディオ店に勤めているという立場を忘れた私に、氏は静かに言う。『でも、この『今』レコードを走らせる一瞬は二度とない瞬間だから、どうやっても同じものを聞くことはできないですよね。』でも、それが生きている感じがしてよいと言う。



「レコード」というメディアの話から、音楽の話、LP12や他のプレーヤーの話にいたるまで話が及び、私は氏の話にすっかりめりこんでしまった。さんざん話を聞いた最後に、愚問であることを承知しながらも「LP12はどんな存在ですか?」と聞いかけたみた。

「んー。難しい質問ですね」と言いながら、「LP12ってレコードをかけやすいんです」と続けた。

肩透かしをくらった私に「形がね、レコードをターンテーブルにのせやすいんですよ。厚みとか、高さとか奥行きとか、シンプルなことだけいい具合です。」

氏の言葉を反芻しながら、次のレコードをかけるまでの様子を見て、なるほどと思った。冷静にも聞こえる言葉の裏には、氏とこのターンテーブルの絆が回り続けるのと一緒に、緩やかに螺旋を描きながらずっと続いているものだと。

それは、レコードが回り続けるのと一緒に、緩やかに螺旋を描きながらずっと続していくものだと。
LINN「SONDEK LP12」は生き物だ。LP12は氏にその身を預けながら、静かに会話する。



【愛聴盤】

1. P.ガブリエル「UP」
2. D.サルーシ「The End Andina」
3. J.Kケージ「竜安寺」/M.ビュグリーズ他
4. J.S.バッハ「ゴルトベルク変奏曲」/P.ゼルキン

LINN SONDEK LP12 SE UPGRADES



今年1月にLINNからリリースされたLP12 SE UPGRADE。

LP12を根柢からアップグレードさせてしまうスパシファイKEELとスーパートーンアームEKOSE SE。

地味な見た目と価格を知ってます驚いた。「何故?」と。店頭で試聴する機会があって、さぞ凄い音を聴かせてくれるだろうと、当然期待を抱いた。これだけの価格だからと。

盤面に針が落ちた瞬間、予想を超えた事態が起きた。これまで聴いたWaltz for Debbyは何だったんだろう。

ビル・エバンスとスコット・ラフロの間に空気が振るえはじめ、ブラシを手にしたポール・モチアンがゆったりとスイングしている。私は今ヴィレッジ・ヴァンガードに居る。

LINNは始まりのときから35年、レコードの再生に取り組み続けています。これだけの革新があって、今なおLP12であるのは、製品に自信と誇り、何より愛情をかけているから。音楽に出る構造、言葉の無力を雄弁に示すEKOSE SEについては紙幅が尽きた。レコードプレーヤーの不思議が心をとらえて離さない。